

# 【日本心臓ペースメーカー友の会】

資料2-9

## 団体に関連した、循環器病に係る現状・課題と今までの取組について

- ・心臓ペースメーカー植込み患者と家族を中心に、専門医療者、機器技術者で構成される患者団体。国産第1号植込み手術医師団主導のもと、発足して50余年。東京の本部と全国に29支部を置き、活動を続けてきた。
- ・自分の病気に対する患者の理解度は総じて低い。専門医の講演、質疑応答の開催や、論文、患者意見等を掲載する会誌により周知に努め、支部においても、顧問医師や医療技術者との勉強会、会報を通じ、医療者との意思疎通ができる患者力の向上に努めてきた。病を得たら終わりではなく、そこから長い患者生活が始まる。健やかに過ごすには当事者の努力も必要と考える。
- ・同病の患者をみて、自分をみつめる。ひとに学ぶ。
- ・各支部が訴える、地域並びに施設間における医療格差問題には、顧問医師団のネットワークで対応。

## 短期的(数年程度)に重点的に取り組むべきと考える循環器病対策とその理由について (予防・普及啓発、保健・医療・福祉の提供体制、研究等)

- ・病を遠ざける日常生活の在り方教育の徹底。予防こそが最善の循環器病対策と考える啓発活動の充実を。
  - ・心リハビリに関する正確な認識を持つこととその普及。医療者、患者双方に必要。
  - ・早期発見、早期治療というが、高齢、特に独居者は動きがとれない。手を差し伸べる地域ケアシステムの充実と周知。
- 近くのかかりつけ医との良好な関係を大事にする考え方。
- ・PM治療が世に出て半世紀。MRI対応型やリードレスという新機種が登場する中、長期植込み者の不具合も増加している。
- 施設や医療スタッフとその技術が、すべて一定の水準以上にあるとは言い難い現状の改善。

## 中長期的(10年単位)に重点的に取り組むべきと考える循環器病対策とその理由について(予防・普及啓発、保健・医療・福祉の提供体制、研究等)

- ・若年層のPM装着者が増加傾向にある。就学、就労問題を含め年代ごとの支援体制の強化を。
- ・高齢化の加速とともに、思うように動けない患者は増える。日ごろのリハビリ指導に加え、使いやすく質も高い補助具の研究、開発、改良対策も同時に加速してほしい。
- ・デバイスラグ、ドラッグラグの解消を望むも、厳しい検証は外せない。制度上のプロセスに検討の余地はないか。